

# 市政会会派視察報告書

池田滋彦

平成30年5月14日～16日

視察先

5月14日 千歳市 15日 根室市 16日 小樽市

5月14日(月) 視察先 北海道千歳市

視察目的 千歳市合葬墓について

平成26年12月15日設置 共用開始平成27年5月1日

定められた区画内を使用する従来の墓地と異なり、一つの墓地に

血縁を超えた人々の多くのご遺骨を埋蔵する新しい方の墓地とする。

市で管理し墓地を将来誰が管理するかなど継承の心配がなく、墓地が将来放置される心配はない。合葬墓は霊園の中の南に位置しお参りしやすくなっている。

形態には骨壺や骨壺から出してほかの遺骨と合して埋蔵がされるのがほとんどで1,500人分埋蔵することが出来る。使用できるのは千歳市民年に円のある人都市「千縁塚」とした。

この合葬墓を設置の経緯は背景には証紙高齢化や核家族化が進み管理継承が出来ない問題が市民からの要望で永代供養の墓地を解消のため設置になった。計画から設置

まで8年かかったが市民アンケート調査や北海道の他市34市への調査

宗教団体からの意見調査を行ったためである。宗教団体からは設置は有意義である。

市として特定の宗教上の行為、儀式が行われ、強制されないよう強く申し出があった。市として宗教的な懸念がないため供養祭などの行事は行わず宗教家が異なる

多くの方々の焼骨を埋蔵するため、埋蔵時や参拝時の供物や献花をはじめ、合葬墓

前での読経や聖書の朗読などの宗教的な行為はすべて遠慮していただき管理を行っている。

埋蔵された遺骨は取り出すことが出来ない、埋蔵された碑に名前を刻むこともできない。埋蔵された方の氏名等は市が台帳管理してる。維持管理費年間653万円 樹木剪定56万円

当算定し1体当たりの使用料は役4千円、永代とし将来の指定管理料や墓の管理費の上昇も考慮し、計算切り上げで5千円と設定した。

指定管理はシルバー人材で管理、ほかに放置されている墓地の処理は現状のままである。お墓の問題は今後全国的問題となっていく事と思います現に放置されたお墓

管理されないお墓がどんどん身近でもある話でお寺そのものもやっていけないところも出てきている現在合葬墓は将来必要になると痛切に感じました。

二日目 5月15日(火) 視察先北海道根室市

視察目的 根室市防災問題の取り組みについて

災害に強い知識づくりを目指して

根室市はすべて海に囲まれているため地震で津波が発生したら必ず被害を受ける

自分たちの地域は自分たちで守るための地域意識の連携意識の下に自主的な

防災活動が不可欠となる。災害発生時に各自バラバラに行動するのでは大きな期待が出来ず地域住民が一致団結し、組織的に行動することによりその効果を高める。

地域ぐるみ防災体制の確立が最も重要で防災関係機関と地域一体となって

緊密な連携を取り万が一の災害に備えなければならないとする。

#### 日頃の活動

いざという時に自主防災組織が十分に活用できるように、一人一人が火の消し方  
応急手当の心得など、災害について正しい知識を持って行動する。実際に災害が  
発生したときなかなか思うように体が動かない、そのようなときに落ち着いて安全に行動で  
きるように慣れておくことが大切である。

防災出前講座の実施 陸上自衛隊、海上保安部、警察、消防

根室高校での高校生との防災会議

学年ごとの研修、救急救命士の講習で救命士証書獲得それを生徒手帳の表に記載してあり災  
害時には活用できる。

根室市の記録に残っている被害地震は1843年依頼6階発生している近年は昭和48年  
の根室半島沖地震、平成5年の釧路沖地震、平成6年北海道東方沖地震などいずれも大きな  
津波被害を受けている、道東に近い千島海溝周辺は繰り返し海溝型の地震が発生しているた  
め常に警戒をしている。

根室では国益的、政治的に活動しているのが北方領土問題であり、北方領土問題の組み  
組みを急ぎよ取り入れて現地視察を行いました。天候にも恵まれ政府機関が訪れると説明される  
方から歴史的に教えられ根室北方領土返還についてすぐ先の国後島、歯舞群島が肉眼で確認  
ができ初めて見ることが出来たのも良かったと思います。総理や担当大臣歴訪が残されてい  
るが現在は大変難しいと説明される。

特に漁業権の海の権利争いは水面下で今も少ないが現実起こりうるとのことでした。

三日目 5月16日(水) 視察小樽市

視察目的 小樽観光大学校、案内人認定制度について

おたる案内人誕生の背景

企画提案した当時過去12年前、小樽市はすでに多くの観光客が訪れるまちになっていた。  
というよりなってしまう。

観光客平成18年で769万人ピーク時は平成11年970万人あった。

ところが、観光ガイドはほとんどいなく、独学でガイドを養成する仕組みが必要になったた  
め。

大学校は校長が小樽市長

運営委員長が民間企業経営者で商工会議所副会頭

運営委員 小樽商科大学、小樽観光協会

小樽市教育委員会、小樽市産業港湾部

北海道職業能力開発大学

保北海道中小企業家同友会、しりしべ・小樽支部

事務局 小樽観光協会 企画・講座・検定 NPO 法人歴史文化研究所

まちの観光パターンを捉え、それに合った人材を養成

☆小樽の歴史を体系的に理解している人材小樽観光は歴史観光

☆自分のまちのすごさを伝えられる人材

☆おもてなしの心を理解し、実践できる人材、知識だけの人材ではない

資格は3種+基礎

基礎 誰もが受講できる【一日受講】小樽のなりたちの基本的な知識を大まかに勉強する。

2級 誰もが受講できる 試験もある

小樽観光ガイドに必要な基礎的な知識を身につけている

1級 受験資格は5日間の受講が必要、主に観光関連従事者とガイドを目指す人が対象、ガ

イドができる知識を身に付けて、おもてなしの心をりかいしている。  
マスター 受験資格は1級取得者で2日受講主に観光ガイドを目指す人が対象  
専門的な知識を身に付けおもてなしの心を理解している。小樽観光の提案ができる人材。平  
成27年度都市景観大賞「景観教育、普及啓発部門」優秀賞、受賞  
小樽市全体で考えるとき歴史のまち小樽いわれるほどでしたが今は人口減少もあり産業が  
活発でないことから観光で再生をさらに世代を超えて伝承していくためでもある。中画工の  
生徒も案内をしながら勉強をしているのは大変有意義に感じる。